

和歌にも詠まれた 播州松めぐりコース

コンセプトポイント



1 浜の宮公園

昔の加古の松原で、市の木「黒松」が群生する公園。広い公園内にはグラウンド、手軽にジョギングが楽しめるランニングコース、多目的グラウンド、市民プール、運動場があり市民の憩いの場となっている。

チェックポイント 昔より名松林として知られている場所。



2 加古(鹿兒)の浜松

浜宮天神社(はまのみやてんじんじや)境内にある松。菅原道真公が太宰府へ派遣される道中、船から降りてこの地に立ち寄った際、海上の平穏と万民の幸福を祈願し、松の木を植えたと言われている。初代の松は明治初年に枯れてしまい、現在は社殿の東に二代目が生い茂っている。樹齢は約550年で、道真が眠る九州の方向に向かって枝を伸ばしている。

チェックポイント 道真の逸話が残る松。



3 尾上の松

初代尾上の松は謡曲「高砂(たかさご)」に謡われた霊松で、尾上神社の境内にある。太さは約6メートルにも及び、地上から3メートルほどの位置から男松(黒松)と女松(赤松)に分れていた。女松はまっすぐに伸び、男松は上下に曲がって生えていた。その上に上がった松と地面の間を鳥居として、諸人が参詣したという。現在の松は5代目で樹齢は約100年と言われている。

チェックポイント 一本の松が黒松と赤松に分かれることは非常に珍しく、霊松としてあがめられてきた。



4 片枝の松

尾上神社の境内にある松。神社を創建した神功皇后(じんくうこうごう)を慕って、枝葉がごとごとく東に向かって張ったと言われている。そのため「都恋しき片枝の松」とも言われた。その形状は、籠がうすくまったように似て美しく、色も鮮やかな松だったが、昭和24年に枯れてしまった。現在は三代目の松。

チェックポイント 東に向かう枝が伸びやかで美しい松。



5 手枕の松

住吉神社の境内にある松。航海の神様である住吉大明神(すみよしだいみょうじん)のおかげにより生えた松と言われている。松が横に傾き、腕枕をしているように見えることから「手枕の松」という名前がつけられた。「播磨鑑(はりまがみ)」にも曾根の松に並ぶ霊松という記述がある。初代の松は大正末期に枯れ、現在の松は3代目。播州松めぐりの東端にあたる。

チェックポイント 昔の播州松めぐりコースの最終地点。



昔の人々の大きな娯楽であった播州松めぐり。
当時、この地域は播磨灘の白い砂浜に松の緑が映え
非常に美しい景観だったそうです。
今は何代目かの名松が、現在もその姿を見せてくれています。

【凡例】

- モデルコース (約8.5km)
- 1~5 コンセプトポイント
- A~D よりみちポイント

トイレ
 喫茶 レストラン
 自販 目販機
 P